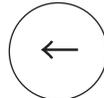




小橋敏弘の ニッポン大好き! Hello Japan ヨーロッパ在住40余年、外から見ていた日本!

Vol.26 福祉国家スイスでは犬も税金を払います



家畜の誘導・保護
農場敷地の見張り
野生動物からの防衛

こうした役割は農業経営の一部であり、犬が農業の生産活動に直接貢献していると見なされず。

まとめ

農場犬の Hundesteuer が減額されるのは、農業に不可欠な労働力であること
地域の安全に貢献していること
自治体の条例で特別扱いが認められていること

農場犬の減税は自己申告ベースに近い

多くの自治体では、農場犬 (Hofhund) の減税を受けるために必要なのは、「農業経営者であること、この犬は農場犬です」と申告すること、これだけで通ってしまうケースが多いです。

つまり、犬が実際に家畜を追っているか、敷地を守っているか、農作業に参加しているかを厳密にチェックする仕組みはほぼありません。

なぜチェックが甘いのか

行政側が実態調査をするコストが高すぎる。
自治体が「その犬が本当に働いているか」を確認するには、農場に行って観察するしかありません。そんなことを全件やるのは現実的ではない。

農業は政治的に優遇されやすい

スイスでは農業は保護対象で、「農家の負担はなるべく軽く」という政治的な空気があります。犬税の減額はその一部。

農場犬の定義がそもそも曖昧

自治体によっては「農場に住んでいれば農場犬」と解釈されることすらあります。
つまり、農場にいるペットでも農場犬扱いになることがある。



profile 小橋敏弘

年齢、もうすぐ70歳。

1975年からヨーロッパ在住。その大半はスイスの企業にてサラリーマン生活を、64歳からリタイア生活をエンジョイしています。

学生時代をイギリスで過ごし、大学卒業後はスイスに移住。孫6人に囲まれている爺さんです。

趣味は何にでも興味を持ち、最近ではChat GTPを駆使して、幅広い分野を勉強中。

母国語日本語を再勉強しながら、ドイツ語、英語も同時に駆使し、ヨーロッパ各国に住んでいる友達とコミュニケーションを取っています。

唯一、体を動かす趣味は、ここ10年ほど毎週一回ぐらいのペースでやっておりますCountry Line Danceです。



写真/筆者(右)と妻